第144号
平成28年6月
フクタニュース
発　行
(株)フクタ

先人顕彰

５月２１日、田中舘愛橘博士の銅像の除幕式がありました。この像の建立は当社の石材部で施工させて頂きました。両手を大きく広げた田中館博士は、明るい未来を暗示しているようでもあり、やさしく包み込んでくれるようでもあります。二戸シビックセンターの前に立つ銅像が、秋の国体で全国からいらっしゃる選手を迎えてくれることでしょう。

継続そして定着

協力して花植え

標識改修
下にプランターをおいて、
入り口をきれいにしました

玄関ではカエルが無事に帰ることを見守ってくれています

新年度が始まり、少しずつ場内の環境整備に取り組んでいます。いらない物は捨て、掃除をして、古い物は取り替えて、だいぶきれいになりました。

しかし、今までは一度きれいになってもしばらくすると元に戻ってしまいます。きれいな環境を維持するために汚れたら掃除をする、使ったら元に戻す、古くなったら取り替える。

そして、もっときれいにするために全員が継続して取り組んでいく必要があります。気持ちの良い職場環境は、その職場にいる人が作り上げていくものだと思います。

安でsite　～ありがた迷惑～

『世の中移り変わりが早いから、ドンドン新しいものを導入して、便利で使いやすく変えた方がいいですよ』そんな善意？でWindows10が突然やってきた。
聖書を持ち、家々を回り『キリストを信じなさい』とやってくる人よりまだタチが悪い。コンピューターを使う側の事情や意思や希望はおかまいなし、上から目線を感じるのは私だけだろうか・・・。これまでもパソコンのＯＳは何度か変更され、その都度従来のソフトは正常に動作するのかビクビクしながら対応せざるを得なかった。建設機械は昭和の時代の部品も調達でき修理がきく。古くてもなじんだ物を大事に使う。そういう選択もあるのではないかと思うのだが。

子育て(?)奮闘記

工場内で迷子のセキレイ（たぶん）の赤ちゃんを発見！おそらくダンプの荷台に巣を造り、そこから落ちたようで、他の場所でまた発見。２羽となった。巣を見つけられず返してあげるところがなくなってしまい、しばらくは面倒を見て、いつか空へ帰してあげたい！と希望を持って、子(?)育てを始めることとなりました。

発見1日目

１羽はかなり弱っていたが、口をあけてエサを与えた。
元気になって口をパクパク！カワイイ♥

発見3日目

発見4日目
色が黒くなってきた

発見4日目夜
１羽が天国へ(TT)

あまりに小さくて、ふにゃふにゃで鳴き声がしないと心配で。残った１羽には、空を飛んでほしいと願うばかりです。来月号で毛の生えたこの子をフクタニュースに載せたいです。

惻隠の情（そくいん）

かざらない穀田屋の店構え

通りに面した蔵

映画は笑えます

宮城県黒川郡大和町吉岡、２５０年前は戸数２００戸ほどの宿場町であったらしい。現在は国道４号線と４５７号線に挟まれ、交通量の少ないひっそりとした街並みである。

２５０年前の吉岡宿の人達は、藩からの重税と荷役に耐え兼ね宿場を去る人が後を絶たず、人口減少により宿場は寂れる一方であった。そういう状況をなんとかしたいと、穀田屋十三郎をはじめとする同志９人が、８年がかりで私財を投げ打ち節約して１０００両（３億円）を貯めて、伊達藩に貸付け、利息（１割）により貧困救済、吉岡宿建て直しを成し遂げたのである。特筆すべきは、この人達は苦労して貯めた元金も利息も決して私用せず、さらに『つつしみの掟』を定め、出資者であることを口外しないこととし、子孫に至るまで守らせることとしたのである。

自利を捨て無私に徹する。そういう人が確実にいた日本は世界に誇れる国である。現在の穀田屋も脈々とそして掟を守るようにつつしみ深い構えで営業している。

本は
泣けます

宿場町の風情

出典：　磯田道史著『無私の日本人』
　　松竹映画　『殿、利息でござる！』